様式１

令和7年度　調布市立染地小学校　学校経営計画（学校長　八木橋　小百合）

学校の教育目標
○あたたかく(自分も人も大切にする力)　◎たくましく(自分で考えて行動する力)　○まえむきに（自分からチャレンジする力） 生きる子どもの育成
目指す学校像(ビジョン）　例）学校像，教員像，児童・生徒像
みんなでつくる　みんなが大好き　染地小学校 (児童・教職員・保護者・地域の一人一人が主役　みんなで力を合わせて大好きな母校をつくる)

ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	・小規模校の強みとして「すべての児童をよく知り関わることができる」ことを全教職員で大切にしてきた。しかし、困っている児童や保護者に寄り添える学校として、まだまだ「成長の伸びしろ」があると私は考える。また、今年度からチーム担任制と学年教科担任制を導入し、すべての児童を全教職員で多面的・多角的に指導・支援を行う体制を整えていく。この学校を誰かがつくるのではなく、自分（児童・教職員・保護者・地域の一人一人)が、学校をつくっていくという思いや意識をもち、どう力を合わせて行動するかが今後の課題である。

中期的な経営目標

1　自分から周りの人にあいさつをしたり、やさしい言葉がけをしたりする児童を育成する。
2　自分の考えをもち、友達との学び合いを通して、自らの学びを深めていく児童を育成する。
3　外遊びの日常化や体力向上の取組の充実を図りながら、運動することの楽しさを味わわせ，心と体の健康及び体力の向上を図る。
4　小さなトラブルも丁寧に大人が聞きとり、児童にとって、いじめがなく、安全・安心な環境づくりをする。
5　特別支援教育の推進を図り，どの児童にも居場所がある環境づくりをする。
6　教職員・保護者・地域と連携し力を合わせ、自分のことを誇りに思える子供を育てる。
人・組　一人一人がこの学校をつくるという思いのもと、みんなと力を合わせて一つ一つの課題に取り組み、乗り越える組織。

調布市立学校における共通した領域　＜短期的な経営目標＞

1　豊かな心(徳)	2　確かな学力(知)	3　健やかな体(体)
(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）
①　自分も人も大切にする児童を育成するために、相手を意識して挨拶をしたり、やさしい言葉遣いをしたりすることができる。(管理職が校門で毎朝、挨拶する。毎学期や年二回のあいさつ運動に全校で取り組む。全校朝会で優しい言葉遣いについて話す。)	①　自分の考えをもち、友達との学び合いを通して、自らの学びを深める児童を育成するために、単元や一単位時間の指導の中で、教員は自由進度学習にチャレンジしていく。また、タブレット端末の利活用と板書型指導案の活用を行っていく(通年)。	①　外遊びの日常化、体力向上を図る取組の推進を通して、運動の楽しさを味わわせる。(全学年)
②　「気持ちを話そうタイム」を活用し、自分や友達の感情に気付く体験をする。 (低・中・高・たけ各７回実施予定)	③　校内研究「自分で考え、判断し、行動できる児童を育てるための指導の工夫～やってみよう!「自由進度学習」～(研究授業２回)	②　栄養士による給食メモ、養護教諭による保健指導を通して、自分の健康について意識を高める。
(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）
①　学校評価アンケートにおいての肯定的評価 ・「あいさつ」(児童)85%以上　(R5-83%) ・「言葉遣い」(児童)80%以上　(R5-78%)	①　学校評価アンケートにおいての肯定的評価 ・「学力の定着」(児童)90%以上　(R5-84%) ・「個に応じた指導」(児童)88%以上(R5-86%)	①　学校評価アンケートにおいての肯定的評価 ・「健康」(児童)86%以上　(R5-84%) ・「運動」(児童)80%以上　(R5-76%) ・「食育」(児童)88%以上　(R5-86%)
②	②	②

学校の特色を生かした領域　＜短期的な経営目標＞

4　特別支援教育の充実	5　保護者・地域の教育力の活用	6
(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）	(1)　取組目標（具体的方策）
①　交流における年間計画の下、特別支援学級児童と通常の学級児童との交流を進める。(学期に１回)また、普段の学習の中で、異学年児童・特別支援学級児童との共同学習を意識して取り入れていく。(一月１回以上)	①　学校運営協議会で熟議を重ね、地域と共にある学校づくりを進める。(６回実施)地域学校協働本部のコーディネーターを中心に 地域の学習資源を発掘し、学習支援ボランティア を活用し、ゲストティチャーによる体験的学習の充実を図る。	
②　合理的配慮委員会を開き、個別の支援の充実を図る。	②　保護者会・個人面談(７．１２月)学校公開、学校だより・ホームページ・すぐーる等を活用して、保護者・地域の学校への理解を深める。	②
(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）	(2)　成果目標（数値目標）
①　学校評価アンケートにおいての肯定的評価 ・「交流」(児童)60%以上　(R5-50%) (保護者)65%以上　(R5-60%)	①　学校評価アンケートにおいての肯定的評価 ・「情報発信」(保護者)95%以上　(R5-92%) ・「地域資源の活用」(保護者)95%以上(R5-92%)	①
②	②	②

人材育成・組織運営
・主幹・主任教諭を各分掌のリーダーに配置し、若手教員と一緒に職務を行い、組織力を高める。 ・チーム担任制・学年教科担任制のシステム構築の中で、「学びあう力」「助け合う力」を高める。 ・計画年休の取得を進め、仕事と人生のバランスを考えさせる。 ・会議はポイントを絞って行い、教材研究や授業準備の時間を確保する。スクールサポーター・スクールサポートスタッフ・エデュケーションアシスタント・副校長補佐等を活用する。 ・研究主任を中心に、自分の成長のための校内研究・研修をチームごとにすすめる。